

IV 支援のアイデア



<この章の活用にあたって>

支援のアイデアを活用するにあたり、以下の点に特に留意してご使用ください。

- ここに記載されている支援のポイントは、すべての児童生徒に対応できる方法ではないことに留意してください。支援を必要としている児童生徒の実態を十分把握し、その背景をしっかりとらえ、保護者とも十分相談しながら支援の方法を検討していくことが大切です。
- 支援のポイントの中で効果的な支援が見つかった場合でも、児童生徒一人一人の障がいの状態に応じた工夫をすることを常に心がけるようにしてください。

① 話を聞けるようにするために……

どんな状態？

集団の中での指示を聞き漏らしてしまう。

学級全体の中では、自分に言われているという意識を持ちにくい。

集団の中での指示を聞き漏らしてしまう。

なぜそうなるの？

聞くことが苦手な子どもにとって、口頭だけの指示では聞き間違えたり、聞き漏らしたりする。

聞かなければならない声に、集中できないことがある。

聞いた内容を、短い時間でも記憶することが難しかったり、内容が理解できなかったりする。



支援のポイント

- 絵や写真、カードなどを使って、視覚的な手助けをする。
- 正面から目を見て、具体的なことばで、短くはっきり話す。
- 名前を呼んだり、肩に手を置いたりして注意を引きつける。
- 1回に1つの指示をする。
- 話し終わったあと、本人に内容を確認する。
- 分かりにくいことばや内容で指示をしないようにする。

② 楽しく文字を書けるようにするために……

どんな状態？

枠の中に文字がバランスよく収まらず、はみ出してしまふ。

形の似た文字を書き間違えたり、鏡文字を書いたりすることがある。

拗音や促音を書き間違えてしまふ。

黒板や教科書の文字を書き写すことができない。

なぜそうなるの？

文字の形をとらえたり、記憶することが苦手である。

目と手の協応運動がうまくできない。

空間の認知が苦手である。

支援のポイント

- なぞり書きを通して、文字の形を意識させる。始点・終点を意識してバランスよく書けるようにプリントを作成する。
- 文字全部を書いたもの、途中まで書いたもの、始点のみのものと段階的に練習できるようにする。
- 大きいマス目のノートを使わせ、段階的に小さくする。
- 書き順を「かぞえ歌風」にして書かせる。
- 拗音や促音は、単語を耳で聞いて書き取る練習をする。拗音や促音が入るマス目に補助線を入れて、文字の位置と大きさを意識させる。
- 板書する文字の量を少なくしたり、チョークの文字の色を工夫したりする。
- 黒板と同じ内容の手本を手元で見て、書かせるようにする。

③ 文字や文を正しく読むために・・・

どんな状態？

教科書などを読むときに、行を読みとばしたり、同じところを読んだりしてしまう。

文字は読めても、単語や文として読むことが難しい。

文字は読めても、内容を理解することが難しい。

文字を抜かしたり、文末を変えて読んだりしてしまう。

なぜそうなるの？

行をとばしたり、文末を変えたりしてしまう子は、注意や集中の困難さや、必要なところだけ見ることがうまくできないことがある。

単語や文節をまとまりとしてとらえる、語彙を結びつける、記憶するなど原因がある場合がある。

文字の形を正しくとらえることや、文字と音を対応させることが苦手な場合が考えられる。



支援のポイント

- 文字の大きさ、行間の広さ、分かち書きにするなどして、読みやすくする。
- 読めない文字にはふりがなをつけたり、単語や文節ごとに区切って、指で押さえながら読ませる。
- 単語カードを使って、単語をまとめて素早く読み取る練習をする。
- 文節読みや交互読みなどの方法を取り入れる。
- 定規で押さえたり、1行だけ見えるようにしたりして、読むところだけ見えるようにする。

④ 楽しく話すことができるために…

どんな状態？

自分の気持ちをうまく表現することができない。

相手が何を言ったかを忘れてしまう。

単語としては話せるが、文として話せない。

尋ねられたことに答えられない。

なぜそうなるの？

出来事を順序よく整理することができないために、表現することが苦手である。

集中して、聞き取ることができないために、話す量が少なかったり、表現が苦手になったりしている。

助詞の使い方や文の組み立てがうまくできないために、文として話せない。

記憶することが弱いために、相手の質問に対して、答えることが苦手である。

構音障がいや吃音のために、話すことに自信が持てない。



支援のポイント

- 出来事を時間や順序に従い、カードに書かせ、それを見ながら話をさせる。
- 子どもの話の内容を繰り返しながら、抜けている要素については問いかける。
- 子どもの話しかけに対して相づちをいれて会話の形式を覚えさせたり、会話の形式をロールプレイなどで学習させたりする。
- 「はじめに」「次に」「最後に」などの話のパターンを練習させる。
- 伝言ゲームなどを通して、「聞くこと」「話すこと」の練習をする。
- 教師と一緒に読むことで緊張をほぐし、自信をつけさせる。